

自立と貢献

※・・・生徒指導提要の参照ページ

1. 校是について

「自立と貢献」の意味するところ ←ウェルビーイングの視点

生徒指導の目的 (※P13 生徒指導の目的)

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

↓

*自己の幸福追求力（個性化：よさや可能性）・・・「自立」：生徒の主体性を育む授業改善

*社会を受け入れる自己実現（社会化）・・・「貢献」：多様な考えに触れ、体験と感動＝新たな価値の創造による共感的な人間関係と地域社会との連携

自立：令和7年の重点目標→ 生徒の主体性の充実

●自己の幸福追求力（個性化：よさや可能性）・・・「自立」：生徒の主体性を育む授業改善
自立と自律

自立・・・自分の力で考え、理解、**判断し**、行動する力。主体性、社会的自立、経済的自立など。

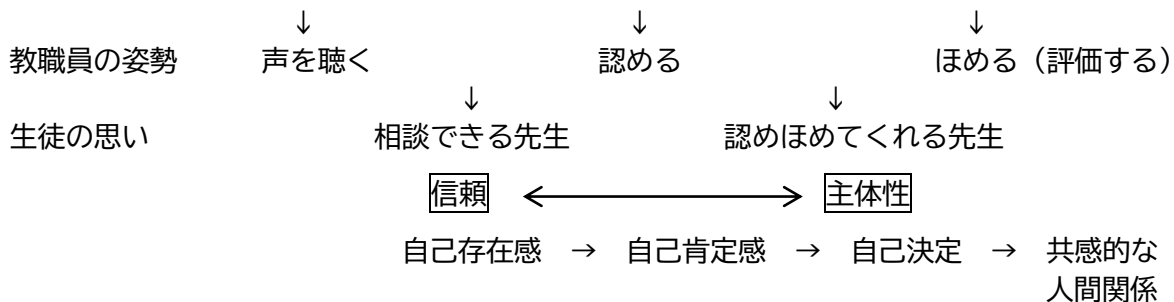
自律・・・自分で自分を律する内面的な独立。

「自律」を基盤にして「自立」をめざす

注) 自立とは何でも一人でやることではない。「うまく人に頼ることができる」社会的自立が大切。

*令和6年度同様に、**判断し**を意識させることで、「考える」と「行動」をスムーズにつなげ、
主体性を育む授業の実践

●教職員は・・・考えさせる授業、**判断：選択肢（自己決定の場の創造）**、行動から結果を導く



●授業改善は、上記を意識して計画・立案、実施、評価、その効果の確認を行い、各自が單元ごとの授業評価を行い、改善に生かす

●私が思う、学校の役割は…「生徒を変える」こと

いつかある人にこんなことを聞かれたことがあるんだ。

例えば、こんな星空や、泣けてくるような夕日をひとりで見ていたとするだろう。

もし、愛する人がいたら、その美しさやその時の気持ちをどんな風に伝えるかって。

写真をとるか、もし絵がうまかったらキャンバスに描いてみせるか、

いや、やっぱり言葉で伝えるかな。

その人はこう言ったんだ。自分が変わっていくことだって。

その夕陽を見て、感動して、自分が感動して変わっていくことだと思ってる。

星野道夫著 「旅する木」より

貢献：令和7年の重点目標→総合的な学習の時間とリンクさせる

●**社会を受け入れる自己実現（社会化）・・・「貢献」：多様な考えに触れ、体験と感動＝新たな価値の創造による共感的な人間関係と地域社会との連携**

貢献・・・実社会や実生活において、何か（誰か）のために、新たな価値をつくり出すことができる力 ←自己実現。

●**教職員も・・・** 互いに尊敬の念をもって生徒の自己実現を支えるために協働する。

・生徒が当事者意識をもってクリティカルシンキングができる力、「自己指導能力」を育成。

「解決の主体は自分」であり、本質を見抜く目、分析的思考力、深く考える力を育む。

※二項対立（賛成か反対か、A案かB案か）ではなく、A案でもないB案でもないさらに上の合意を目指す← 探究活動

●**総合的な学習の時間に大切な感覚**

遊園地型教育から「原っぱ型教育」：鷲田清一

2015年2月22日の京都新聞に掲載された「市立芸大の移転を転機に、さらに発展する『大学のまち京都』」での言葉

これまでの教育では教える側が多くのメニューを用意していた。ジェットコースターかメリーゴーラウンドかと選択するだけの、いわば遊園地型の教育。

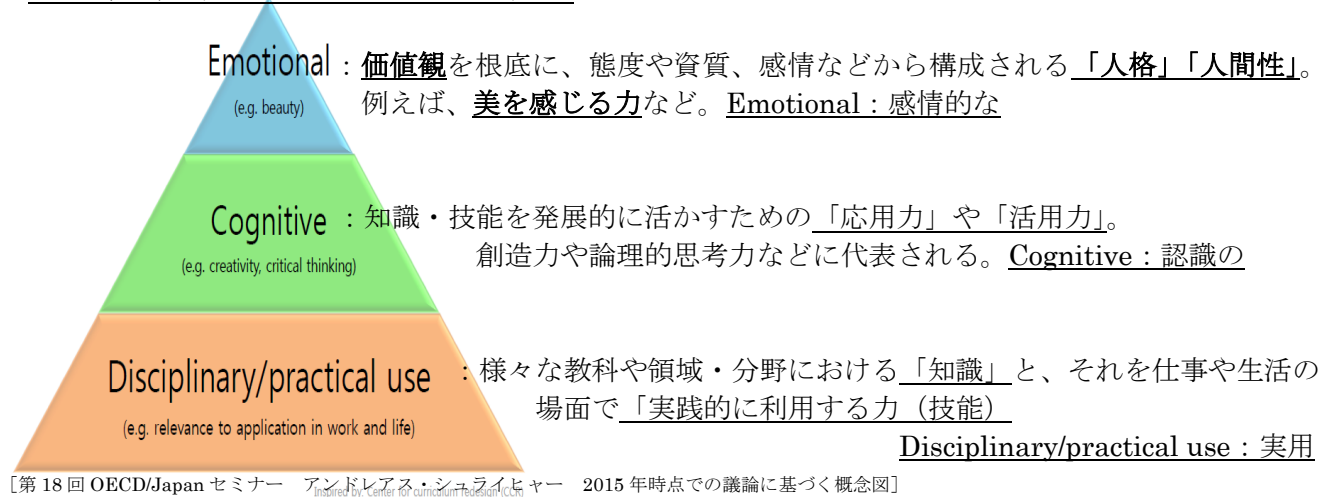
これからは、何もない原っぱで自ら遊びのルールをつくり、その空間に意味を与えるよう導く原っぱ型の教育が、とても大事になる。

教科書の中だけの学習は基本的に誰が扱っても同じだが、子どもと教師が毎回一期一会の出会いの中で創り出していく学びは無限であり、まさにネバーエンディングストーリーの冒険のごとく、ドキドキワクワクが絶えることはないのだろう。教師も一緒に迷ったり、間違えるからこそ、子どもたちも未知の学びの旅に安心して一歩踏み出せるのではないだろうか。

2. 取組の柱

■**learning Compass 2030**：Well-being という身体的・精神的・社会的に健やかで幸福

2030年の社会を生きていくために必要な力



★今までの取組を探究活動で「生徒主体」の活動で整理し、「感動＝価値」へ意味づけします。そして、限られた時間、限られた人材や予算をどのように有効に活用するかという視点で2つの柱を提案します。

(1)人を育てる「学校」づくり

生徒の価値、「夢や目標」を育てる学校:体験から心を揺さぶり「感動＝価値」を生み出す実践と学校改革

①総合的な学習の時間の充実 →体験から感動＝新たな価値へ

②生徒が楽しい授業の実践 →生徒主体の授業

生徒が主体の学校

(2)生徒・教職員のウェルビーイングの両立

③教職員には、「いい仕事がしたい。いい仕事をしてほしい」の一言

④生徒には、「丁寧に生きなさい」の一言

教職員・生徒が主体の学校

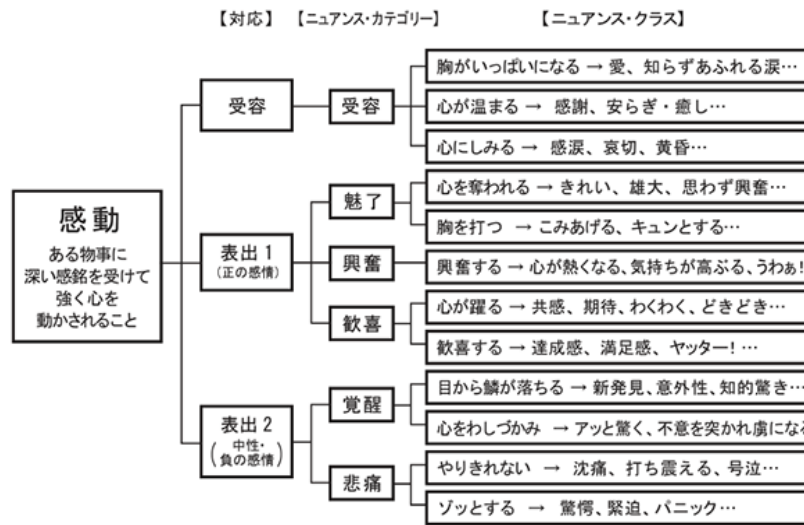
(1)人を育てる「学校」づくり

生徒の価値、「夢や目標」を育てる学校:体験から心を揺さぶり「感動=価値」を生み出す実践と学校改革

①総合的な学習の時間の充実 →体験から感動=新たな価値へ

◆各学期と「感動=価値」との位置付け

*「感動」:深く物に感じて心を動かすこと(広辞苑)

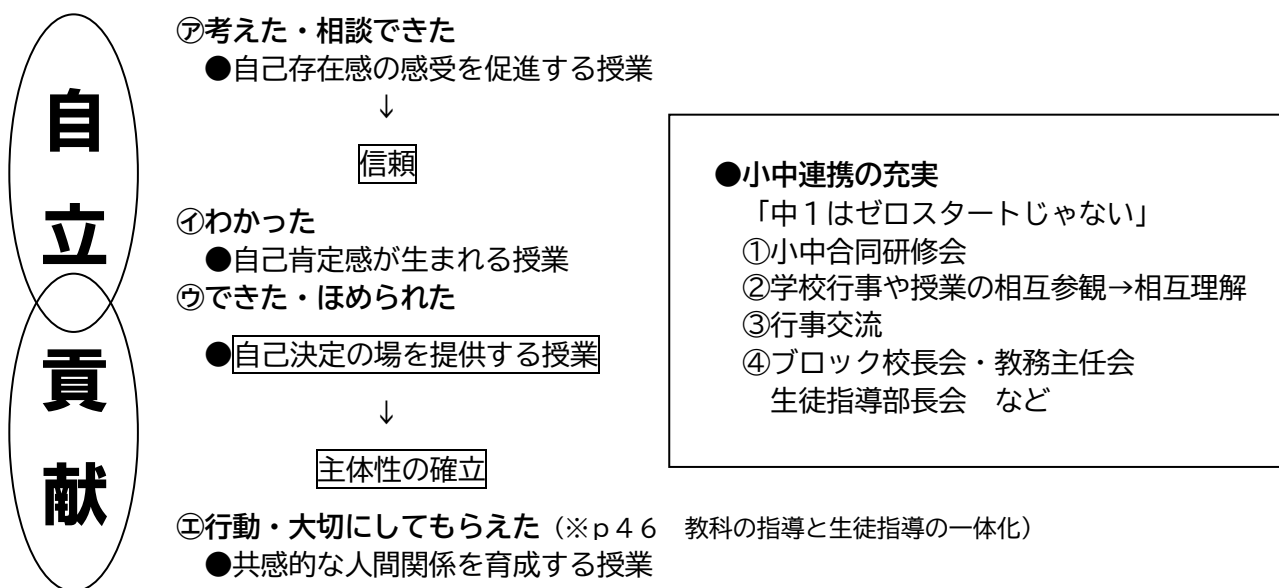


[図 A. 感動の分類と感動の評価語 : NHK 放送技術研究所 2005年にに基づき作成]

	生徒の姿・成長への「願い」や「希望」	季節感を大切にした式の名称	感動		
			受容	表出1	表出2
1 学期	花・風「芽吹き、花が咲き、葉が大きく広げ、爽やかな風が吹く = 色彩鮮やかな生命観と希望の風が吹く、活動期」	4月：花の式（始業式） 7月：風の式（終業式）	○	◎	△
2 学期	星・月夜「星の広がりや夜空に輝く月の美しさ = 夜空のように、からだや心の広がりを生む成長期と、挑戦と失敗の停滞期」	8月：星の式（始業式） 12月：月夜の式（終業式）	○	◎	◎
3 学期	六花・風光る（かぜひかる）「努力が雪の結晶のように美しく結ばれ、春の光の中、優しい風が吹く = 1年間の結びの月、充実期」	1月：六花の式（始業式） 3月：風光る式（修了式）	◎	○	○

- 1学期:花・風(芽吹き、花が咲き、葉が大きく広がり爽やかな風が吹く = 色彩鮮やかな生命観と希望の風が吹く、活動期) → 思考の可視化
 - 希望や夢、目標を考える = 考えさせるための体験や感動が必要:この体験が年間を通じて基本となる。
 - ◎感動 = 希望や夢、目標による成功体験(表出1:魅了・興奮・歓喜)を感じ取り、見通しをもつ。先人の考え方や行動を知る、調べる(比較・分類・序列化・関連付け・類推 など)
- 2学期:星・月夜(星の広がりや夜空に輝く月の美しさ = 夜空のように、からだや心の広がりを生む成長期と、挑戦と失敗の停滞期) → 思考の操作化
 - 自分への期待や可能性を伸ばし、信じる = 考えを広げる体験
 - ◎感動 = 希望や夢、目標を叶えるための努力。挫折や自分を信じることの大切さを思考・体験(表出2:覚醒・悲痛)する(比較・分類・序列化・関連付け・類推 など)
- 3学期:六花・風光る(かぜひかる)(努力が雪の結晶のように美しく結ばれ、春の光の中、優しい風が吹く = 1年間の結びの月、充実期) → 思考の構造化
 - 自分の成長の確認 = 希望や夢、目標をもつ素晴らしさ。
 - ◎感動 = 夢の発表し、他者と夢の共有(受容)。表現から振り返る。(見通す・具体化・抽象化・構造化) → 課題の更新と探究課程の繰り返し

② **生徒が楽しい授業の実践** → 生徒主体の授業

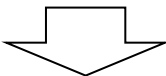


誰にとってもすごしやすい教室・学校を基礎にした授業 (※p 1 4 生徒指導実践上の視点)

- ① 自己存在感の感受・「自分も一人の人間として大切にされている」→「貢献」
- ② 共感的な人間関係の育成・「認め合い・励まし合い・支え合える集団」→「貢献」
- ③ **自己決定の場の提供**・「自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する (主体的・対話的で深い学び)」→「自立」
- ④ 安全・安心な風土の醸成 →「自立」「貢献」

特別支援教育を柱にした「子どもが落ち着いて過ごせる学校・学級」

- ・ 指示や説明がわかりやすい
- ・ 子どもに多くの活動をさせている
- ・ さりげない「ほめ言葉」が多い
- ・ 教室環境が整っている



不登校対策にもつながる

- ① 特別支援教育を柱にした生徒理解に基づく「わかる授業」(※p 4 5 個に応じた指導の充実) さまざまな障がいのある生徒の「授業がわからない」との声に耳を傾ける → 2次障がいとしての不登校 (文科省調査では不登校生の3割に発達障がい認められる。)
- ② S R、L D通級教室の効果的な利用・・・学級担任、教科担任との連携
- ③ ふれあいの杜、フリースクール等との連携

(2) 生徒・教職員のウェルビーイングの両立

③ 教職員には、「いい仕事がしたい。いい仕事をしてほしい」の一言

単に時短だけを目指すのではなく、「やりがい」と改革を高いレベルで実現する職場作りを！
全市 17 時完全下校、超過勤務は月 45 時間以下（毎日 18 時 30 分退校努力）

㊦ ゆとり・・・「改革」

目標を共有した、行事の戦略的な実施と見直し

校是 = 最上位目標 → 学年経営の目標 → 学級経営の目標
→ 学校行事の目標
→ 毎時の授業の目標
※生徒のどんな力を伸ばしたいのか、「生徒のために」を意識して共有する

① リスペクト・・・「改革・やりがい」

対話を通して、立場や考え方の違いを理解し、尊重する。

㊵ 協働・・・「やりがい」

対話を通して、他者と共通の目的を見つけ出す。その共通の目的のために協働する。

誰にとってもすごしやすい教室・学校を基礎にした働き方改革

(※p28 生徒指導の基盤)

○教職員集団の同僚性を大切に育むために

- ①教職員の受容的・支持的・相互扶助的な人間関係
- ②教職員のメンタルヘルスの維持とセルフ・モニタリング

○生徒と同様に・・・

- ① 自己存在感の感受
 - ② 共感的な人間関係
 - ③ 自己決定の場
 - ④ 安全・安心な 風土
- が大切

④ 生徒には、「丁寧に生きなさい」の一言

㊦ 自分の人生を「丁寧」に生きる姿

① 「丁寧」な言葉使いは、自分や人、ものやことに「丁寧」に対応する態度と気持ち

㊵ 授業を「丁寧」に学ぶ姿勢

① 「丁寧」に考える

㊦ 「丁寧」から「感謝」へ